



## Household Vulnerability and Conditional Cash Transfers: Consumption Smoothing Effects of PROGRESA- Oportunidades in Rural Mexico, 2003–2007

Naoko Uchiyama

Singapore: Springer, 2017. pp.96 + x.

ISBN 978-981-10-4102-0

本書は、メキシコ農村における貧困家計の脆弱性と PROGRESA-Oportunidades として知られるメキシコの条件付き現金給付（CCT）プログラムの貧困・脆弱性緩和効果について、最新の2カ年（2003年および2007年）の個票パネルデータを用いて実証的に分析したものである。本書がカバーする期間は、メキシコにおいて稀にみる安定的な経済の下での貧困率の継続的な改善が見られた2000年代前半から突然貧困率が上昇に転じた2006年以降までを含み、CCTは貧困削減に効果がなかったのではないかとという懐疑的な議論に対する一つの答えを提示することを試みる。本書の分析結果によれば、様々な要因をコントロールすれば、CCTは家計の脆弱性緩和に一定の効果を持っていたが、2000年代半ば以降の食料価格危機による影響を完全に相殺するには至らなかったことが明らかになる。また、既存研究の結果と合わせ、著者は現在のメキシコにおけるCCTの限界として、その政策が当初から労働市場における「供給」面（人材の育成）に偏っており、ゆえに、労働市場の「需要」面（特に若者向けの正規雇用の創出）を強化する補完的政策が必要であることを指摘して本書を締めくくる。

本書は5章で構成され、第1章ではマクロデータを用いてメキシコ経済および貧困・脆弱性のトレンドを概観する。第2章から第4章までは実証分析で、第2章では遷移マトリックスを用いて貧困家計の特徴とどのような家計がより脆弱性であるかを明らかにする。第3章では2000年代半ばから顕著になった食料価格危機が貧困悪化の原因になっていることを示唆するとともに、同時期の家計の消費行動の変化を提示する。第4章ではリスクシェアリング・モデルを用いて貧困家計におけるCCTの消費平準化効果を分析する。第5章では先行研究をもとに今後のCCTのあり方を議論する。

開発分野において世界的な注目を集め、各国で実施されるCCTとその評価について日本では十分な情報が提供されているとは言い難い。本書がそのきっかけとなれば幸いである。なお、本書は書籍と電子媒体の両方で発行されており、電子媒体の場合は章単位での購入も可能である。

内山直子（うちやま・なおこ／東京外国語大学）